1990年（平成2年）10月　発行責任者　岡田宏三

編集委員
機械＝福岡照夫（S26卒）橋本健治（S28卒）石川芳夫（S34卒）
電気＝笹本克巳（S13卒）田中己晴（S43卒）
土木＝秋月勝美（S18卒）榎本嘉信（S20卒）
工化＝松井駒治（S32卒）柴田孝次（S34卒）
建築＝若林　衛（S36卒）森川浩弐郎（S35卒）

投稿送り先　西口勝臣（S47卒）
〒273 船橋市山手2-6-2-108
TEL.0474-33-3679

都島だより
KANTO NANIWA KOGYOKAI NEWS
4号　関東浪速工業会　会報

「御臨幸記念碑」

昭和9年土木卒　西谷　通晴

古い人間と思われるでしょうが、私にとっての青春時代の思い出のなかの大きな部分を占めているが御臨幸記念碑である。

六十二年前の十三才の二年生の時から十八才の卒業まで登校時、下校時に敬礼してきた御臨幸記念碑への思いは私ひとりではないでしょう。終戦後（昭和二十年八月十五日）以降は敬礼はしなくなったそうだが、都工のシンボルへの気持ちは科の区別もなく卒業生に共通した思いがあるのではないだろうか。

忘れんとして忘れることの出来ない記念日、それは昭和四年六月五日のことです。畏くも尊き全世界中で一番偉い神様のような昭和天皇陛下が関西地方行幸の御みぎり我等が大阪市立都島工業学校に御臨幸あらせられた。

私は当時土木科二年生として全校教職員生徒と共に運動場に整列正座最敬礼でお迎え申し上げた。たしか、大阪では阪大医学部と我が都工の二校だけが選ばれて最大の光栄に浴したのです。この事はもうとてもじゃないが天地が逆になる位の出来事として都工関係者にとっては一世一代、いや末代までの最高の名誉であり他校から羨望の的とされたものでした。

その栄誉を永遠に後世に伝えるため学校正門前に大きな御臨幸記念碑が建てられ、教職員生徒全員は校門出入の際に必ず記念碑に対し敬礼を行ったものでした。現在は本館改築工事が実施のため他え移されているが、完成の暁にはあの御臨幸記念碑は何処えへどのような形で安置されるのやら教えて頂きたい。

日教組の先生達が日の丸と君が代に拒否反応を示している現在、あの都工のシンボルでもある御臨幸記念碑に対する都工関係者の接し方はどのようになっているのだろうかと、昔人間の私は大いに心配しています。

それはそれとして、私は今も六十一年前の当時を思い出し都工卒業生として我等が母校に立派な御臨幸記念碑のあることを他人様に対する大きな自慢話の一つとしています。

東京ルネッサンスと私の剣道

昭和41年建築卒
教士七段　江良　安雄

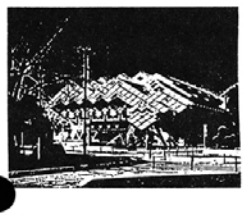
東京ルネッサンス運動（マイタウン東京'85東京都総合実施計画）の目玉の一つとして今年二月足立区綾瀬に東京武道館が完成した。東京ルネッサンス計画としては、千駄ケ谷の東京体育館、両国の国技館横の江戸博物館、初台に第2国立劇場などの大規模建築が現在進行中である。

東京武道館は東京都が日本古来の伝統文化である武道を受け継ぎ、普及発展させる総合的な武道振興の拠点として建設されたものである。武道館の特徴ある外観は「風林火山」で有名な武田家の家紋を彷彿させる菱形の折り重なりと三角形の組み合わせであり、その個性的な形態は設計者六角鬼夫氏のモチーフ「山・海・雲・人」（山波・波紋・雲型・人々の群れ）と云う日本の自然観を反映したものである。

私と東京武道館との最初の出会いは、二月二十五日その完成を祝いこけら落しとして催された開設記念東京剣道祭に七段の部で千代田区の代表と出場の栄誉を受け招待された時である。試合の方は初めての家族全員の応援むなしく、直前の稽古中に痛めた左足ふくらはぎの肉離れが完治せず完敗であった。小生にとっては勝敗より出場出来た喜びと真新しい武道館の床を裸足で感激をもって味わった感触の方が素晴らしい思い出となって心に深く残っている。

なにげなく入った剣の道も今年で三十年を過ぎてしまった。振り返ってみるとやはり都工時代の三年間が強固な礎となり今日に至っていることを痛切に感じる。交剣知愛（剣を交えて愛くおし〉むを知る、稽古を受けた人から愛される事である）により得た良き師、良き友、良き道場はかけがえのない価値ある財産である。

私にとって剣道は今や生活の一部であり、文化であり、ダンディズムである。そして週2回皇居のお堀端丸の内警察署の道場を中心とした稽古で汗を流した後の冷たい生ビールは明日への活力であり、豊かなる人間性創造の源泉である。


東京武道館

"都島だより"に喜び

昭和28年普通卒
塚本佑実子（旧姓松浦）

陽春のある日封書が届いた。何だろうと不審に思いながら開封したところ"都島だより"が目に飛び込んで来た。胸おどる思いで目をはしらせて、この時初めて関東浪速工業会が運営されていることを知った。かねてから、そうした会があればいゝなあ……と思っていただけに大変な驚きです。

会長さんは昭和二十八年の御卒業との事、私も同じ年の卒業です。卒業して早や四十年近い歳月が過ぎた今も高校時代の三年間は忘れがたいものが心底にあります。

"都島だより"三号にあった思い出話しの中で都島周辺の風景などは遠い遠い記憶の糸をたぐり寄せるように思い起こされ、懐かしさで胸が一杯になりました。感謝しています。

卒業以来クラス会は一度あったように思いますが、担任の先生はお亡くなりになり集まる機会は殆どない状態です。関東にいる同窓の方々にこうした会の存在を周知され、一人でも多くの方々が参集されることを願う次第です。

都島本通り

関東浪速工業会も委員の皆様の御努力によって活発な動きになった事を喜んでいる一人である。昭和17年12月に三か月を残して卒業した。当時は戦争も華々しく戦果が拡大していたことは事実のようで、日々「南進々々」が報道されていた。南十字星、椰子、スコール等など、当時の若者であった私も「南進」を考え始め、卒業前に働く決心をして昭和18年1月に土木から二名、電気から一名の計三名で現在の中華民国の海南島へ渡った。（三名とも元気で帰還した事を申し添えておく）

都工時代を想い出す時、一番先に想い出されるのは「戦争」「体力の増強」である。教練、行軍、マラソン、グライダー、武道とこれらにつながるものが強く印象に残っている。今から思えば「何てつまらぬ」と考えることの一つに、土木科校舎の前に「トーチカ」を自分達の手で造り、これを攻撃するのである。当時は真剣で皆一生懸命であった。

武道は剣道、柔道を正課として週一時間であったが卒業時にはクラスの四分の一以上の人が有段者になっていた。下駄履き通学等など想い起こせば切りがないが、今も健康に土木業務に励めることは当時の体力増強の成果かと考えると有り難い事と云わねばならない。

昭和17年12月
土木科卒　石田　拓

想い出

昭和49年機械電気科卒　太田　吉昭

機械電気の科の名称と40人学級に惹かれて昭和49年に入学した。当時は学校から徒歩10分のところに住んでおり、3年間交通費を使わず親孝行であったと思います。通学が近距離ということで時間的に恵まれていたので、部活動（陸上）に専念しようと思ったが生徒会活動の方に興味を持ち、一学年後期から三学年前期までの四期間務めました。体育祭・文化祭・リーダー研修会などの実施要綱の作成、行事その他の企画立案を行った事は今でも楽しい思い出です。

生徒会活動のおかげで他の科の先生方とも交流がはかられ、卒業して3年後に大学の教職課程の実習でお世話になった時も多数の先生方が私を覚えていて下さっていろいろとご指導して頂き、普通であれば針のむしろに座る思いの教室でも結構のんびり楽しい二週間の教育実習を過ごすことが出来ました。

神奈川県足柄の地に住まいを移して十年になります。数年前に初めて関東浪速工業会に参加させて頂きました。仕事・生活に追われ余裕が無く総会には一度しか参加していませんが、都工OBの関東でのご活躍を知り嬉しく思いました。機械電気科の先輩で関大電気工学科に進まれ、私の高3の時に教育実習に来られていた天良先生（現在、都立広尾高校の先生で以前NHK教育テレビでコンピューターの講師として出演されてご活躍されていると聞いています）とも総会でお会い出来ました。今後は出来るだけ総会に出席して多くの先輩にお会し、交流できる機会を楽しみにしています。

人と人の絆

昭和38年工化卒　岩井　誠

卒業して二十六年、当時としては非製造業への就職は希であり総合商社がどういう形態で事業を展開していたのか正直言って分からなかった。住友に商事会社があろうとは思わなかった次第である。たまたまバレーボール部の先輩の中川氏（機35年卒）、綛谷（かせたに）氏（機37年卒）が住商におられ、両氏に強く就職をすすめられ試験を受けて入社した。

名古屋を振り出しに十一年余り、大阪に転じて九年、そして現在の東京での五年があっと言う間に過ぎた。この間、一貫して国内取引を担当してきたが、取引先の海外展開の関係で海外出張も多く毎日どこかの国と交信しバタバタした日々を送っている。私がこの会社に入って得たものは計り知れないが、その中で最も大きな財産は広範囲な公的・私的交友である。他人との付き合いが出来るかどうかで物事が大きく左右される。相手の立場に立った考えで行動できるか否かである。専門知識や語学も当然大切であるが何よりも他人を大事にする事が最大のポイントといえよう。

日本人も海外事業進出に伴い外国人との接渉が多くなっているが、私も幸い良き先輩諸氏に恵まれご支援頂き伸び伸びやらせてもらっていることに大いに感謝している。

現場だより

昭和28年建築卒上田　武治

うわー　十万人の大歓声の中アナウンサーの力強い声「スーパークリーク先頭、後からイナリワンが来た、イナリワンか、スーパークリークか、イナリワンが出た！！、イナリワン一着、」これは昨年十二月二十四日第三十四回有馬記念レースです。

完成間近い中山競馬場。
上の写真はスタンドの半分が部分竣工した時のものです。

有馬記念の謂れは昭和三十年二代目理事長に有馬頼寧氏が就任され、日本中央競馬会の国庫納付金等の臨時特例に関する法律及び政令が公布され、翌年中山競馬場大スタンド改築工事が竣工。それを記念に第一回中山グランプリ競争が実施されました。その後、有馬氏の名を取り毎年その年一年間に活躍した馬のファン投票を行い、選ばれた馬が年末最後のフィナレーを飾る競争、これが有馬記念レースです。

最近の競馬ブームの一つには若手スーパージョッキーの武豊騎手の出現で、女性ファンが増えてきたことが上げられます。それにあやかってか、当中山競馬でも新しい時代のニーズに応えるため全面改築工事に踏み切り、安藤建設他七社の共同企業体で競馬会より下命賜り、昭和六十三年一月より着手し平成二年十一月竣工。約三年の工期に取り組んでおります。請負金四百億円を超え、企業体社員も四十五名の大所帯で作業を進めております。

私は安藤建設に昭和三十二年に入社した。その時かあるいはもう少し後に産声を上げた若者がこの現場にも十五名程働いています。考えてみますと私も年をとったなあと感じる今日この頃です。

しかし、関東浪速工業会に参加し、都島だよりを拝見しておりますと私より遥かに先輩の方々が現役で会のためにご尽力下さり、お元気にご活躍されておられる姿を目の当たりに致しますと私もまだまだ一念発起しなければと言う心境です。

今は、与えられた工事の竣工目指して頑張るのみです。皆様も多忙な中御身ご自愛なされ頑張って下さい。

また、皆様と逢う日を楽しみに、　中山競馬場現場にて。

先輩　後輩　同窓生

昭和36年　電気卒馬江　治喜

「笹本さん、すみませんが相談に乗って頂けませんでしょうか？」と思い切って大先輩に話かけた。2年前の昭和63年度の関東浪速工業会総会の席でのこと、笹本さんは気軽に私の就職の相談にのってくださり現在務めている会社を紹介して下さいました。そして、保証人に迄なって下さいました。ただの都工の先輩後輩という関係だけで、また、総会に出席していたと言うだけで新しい人間関係が生まれたことを嬉しく思い、感謝しております。

私が関東浪速工業会の総会に出席する様になったのは数年前からです。一人で出席しても話相手がいないと思い同期生の石垣、竹村両君を誘い出席しました。二回、三回出席するにつれて先輩後輩とも話をするようになり、それが進んで冒頭に書いた様に先輩に就職先迄紹介して頂きました。

私の場合は幸運だったかもしれませんが、今まで総会に一度も出席されていない方は是非一度同期生数人誘い逢わせてでも総会に出席して、久しぶりにお互いの現状を話あったりまた、先輩、後輩と名刺を交換して自分の交際の巾を広げてみませんか。現在は情報の時代と言われています。いろいろな人に逢って情報を集めることにより自分自身の巾が広がり、人生にもプラスになるものと思います。

また、総会と言うと老人の集まりとか何か暗いと思っておられる方も居られるかも知れませんが、一度是非出席してみて下さい。若い人は若い人なりの収穫があるはずです。また、中年の人は仕事が忙しいため行けないと思っておられる方も居られますが、誰も遊んでいる人は居ないのです。皆さん都合を付けて仕事と異なる情報に触れてみませんか。

関東浪速工業会の活動に何かお役に立つ事があれば努力したいと思っています。

昭和13年電気科卒笹本克巳さんが趣味で収集しておられた全国各地の郵便局印の中から、今では得ることのできない旧領土のスタンプを、今回は三点ご紹介いたしました。

募金協力のお願い

先般、浪速工業会報にても記載されておりました通り、浪速工業会全体として新ホール建設のために募金活動を行っております。ご協力の程お願い申し上げます。

（幹事会より）

◎広告募集◎

Mニュースに載せる広告を募集致します。掲載費は一段（約55㎜）×巾（37㎜）で3千円、二倍の大きさで6千円です。デザインは自由ですので広告原稿とお金を添えて編集委員宛にお送り下さい。頂きましたお金は関東浪速工業会費に充当し、通信費等の補助、Mニュースの作製費、その他、会運営のために使わせて頂きます。

（編集委員会より）

お詫び：今回掲載できなかった方々の原稿は次回必ず掲載させて戴きますのでご了承ください。